

安川電機 (6506)

2010年度第2四半期決算説明会:要約版 (2010年10月18日)

2010年3月21日～2010年9月20日

取締役社長 津田 純嗣

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与える重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

目次

売上高構成比（第2四半期連結）

- ・事業セグメント別
- ・仕向先別

2010年度第2四半期（4月-9月）決算について

- ・決算のポイント
- ・セグメント別業績
- ・四半期連結売上高推移（セグメント別・仕向先別）
（モーションコントロール・ロボット/仕向先別）
- ・営業利益増減要因分析（2009年度上期 2010年度上期）

2010年度連結業績見通しについて

- ・下期事業環境見通し
- ・00～10年度連結売上高・営業利益推移
- ・業績見通しのポイント
- ・営業利益増減要因分析（2010年度上期 2010年度下期予想）

（参考） ・設備投資、研究開発費、為替状況

事業セグメント別売上高構成比 (第2四半期連結)

情報

【主要製品】
コンピュータ周辺機器、レーザー応用システム
情報処理ソフト・サービス

システムエンジニアリング: (S)

【主要製品】
鉄鋼プラント用電機システム
上下水道用電気計装システム
新システム機器等



ロボット: (R)

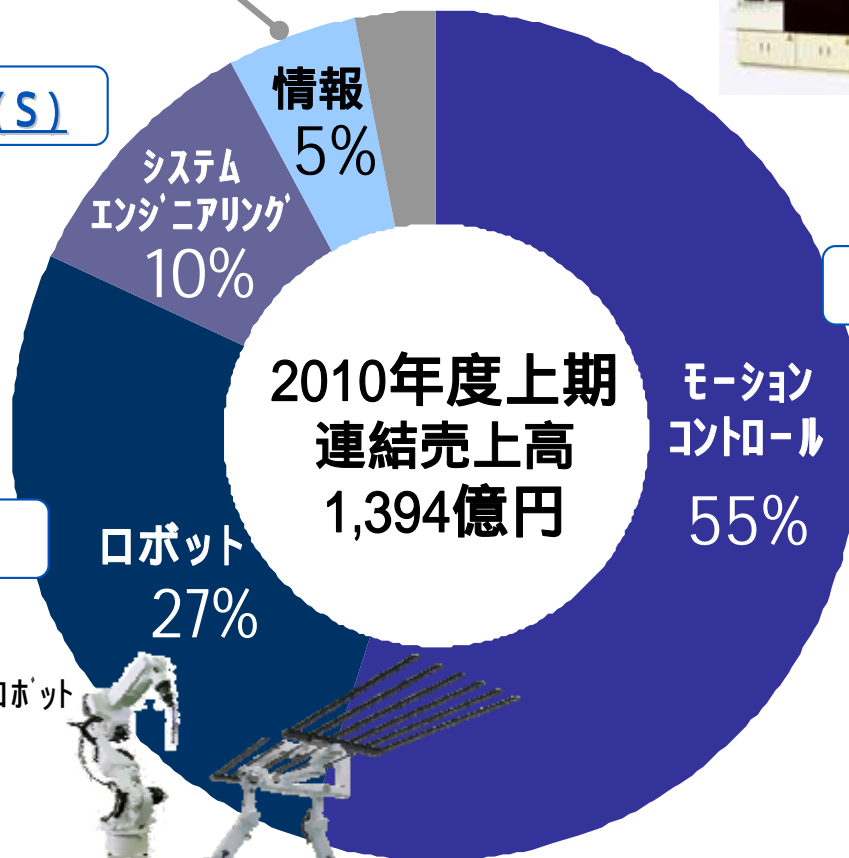
【主要製品】
・産業用ロボット:
アークスポット溶接・塗装ロボット、FPD搬送ロボット
新世代ロボット
・半導体製造装置用ロボット:
半導体製造装置用クリーン・真空ロボット等

アーク溶接ロボット
による自動車
部品溶接



当社製品活用事例

新世代ロボット
によるロボット組立



当社製品活用事例



【電子部品】
チップマウンタ

【工作機械】
タッピングマシン

モーションコントロール: (M)

【主要製品】
ACサーボモータ、コントローラ、リニアサーボ、インバータ等



仕向先別売上高構成比（第2四半期連結）

アジア

【主要生産拠点】

- ・上海安川電動機器有限公司(中国)
- ・安川電機(瀋陽)有限公司(中国)
- ・首鋼モトマン有限公司(中国)
- ・MOTOMAN Motherson Robotics Ltd.(インド)
- ・YASKAWA India Private Ltd.(インド)

欧州

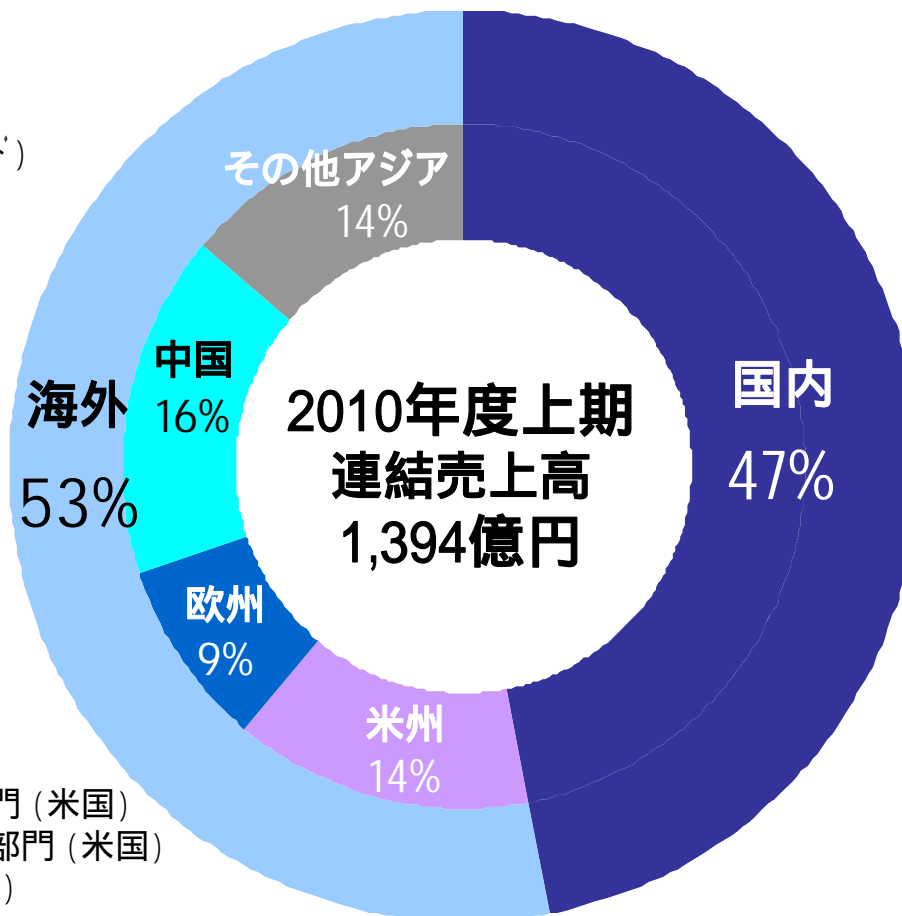
【主要生産拠点】

- ・YASKAWA Europe GmbH Robotics 部門(ドイツ)
- ・YASKAWA Electric UK Ltd.(英国)
- ・YASKAWA Nordic AB(スウェーデン)
- ・YASKAWA Ristro d.o.o.(スロベニア)

米州

【主要生産拠点】

- ・YASKAWA America, Inc. Drives & Motion 部門(米国)
- ・YASKAWA America, Inc. Motoman Robotics 部門(米国)
- ・YASKAWA Elétrico do Brasil Ltda.(ブラジル)
- ・YASKAWA Motoman Canada, Ltd.(カナダ)
- ・YASKAWA Motoman Mexico, S.A. de C.V.(メキシコ)



日本

【主要生産拠点】

- ・八幡西事業所(モトマンセンタ/モトマンステーション)
- ・八幡東事業所
- ・行橋事業所(ドライブセンタ/システムエンジニアリングセンタ)
- ・入間事業所(ソリューションセンタ)
- ・中間工場

(注) 2010年6月1日より、当社グループは米州および欧州における子会社の統合再編および社名変更を行っております。
米州：米国安川電機とモトマン・インクを統合し、米国安川に社名変更
欧州：欧州安川電機とモトマン・ロボテックを統合し、欧州安川に社名変更

2010年度第2四半期(4月-9月)決算のポイント

中国・アジアの好調、主要な国内顧客の業績回復を受け、
(M)モーションコントロール、(R)ロボットを中心に売上・損益とも大きく改善

売上高	1,394億円	前年同期比 + 41.8%
営業利益	34億円	前年同期比 + 119億円
経常利益	34億円	前年同期比 + 116億円
当期純利益	17億円	前年同期比 + 80億円

(M) 地域別では中国・アジアが堅調。インバータはインフラ関連および空調等の省エネ需要、ACサーボは半導体・液晶・電子部品を中心に売上増加

(R) 海外は、アジア・中国向け自動車も堅調。国内は、非自動車向け案件などを中心に売上回復。半導体・液晶も高水準

(S) 鉄鋼関連が端境期ながら、黒字維持

(情報) 原価低減などにより損失は減少

(注)表記: (M) = モーションコントロール (R) = ロボット (S) = システムエンジニアリング

2010年度第2四半期決算連結セグメント別業績

(M)モーションコントロールの業績回復が牽引し、修正予想を上回る

(単位:億円、%)

	10/ 上期				予想比	09/ 上期	前年同期比	
	1Q	2Q		修正予想	増減額		増減額	増減率
売上高	633	761	1394	1370	+25	983	+411	+41.8%
(M) モーションコントロール	348	418	766	735	+32	450	+317	+70.4%
(R) ロボット	172	206	379	385	6	251	+127	+50.6%
(S) システムエンジニアリング	63	75	138	140	1	181	43	23.7%
情報	30	39	70	75	4	73	3	4.1%
営業利益	6	40	34	30	+5	83	+119	n.m.
(M) モーションコントロール	8	33	41	37	+5	39	+81	n.m.
(R) ロボット	11	6	5	4	2	52	+47	n.m.
(S) システムエンジニアリング	0	1	1	0	+1	14	14	92.0%
情報	4	1	5	2	3	6	+1	n.m.
経常利益	7	41	34	30	+5	80	+116	n.m.
当期純利益	10	27	17	15	+2	62	+80	n.m.

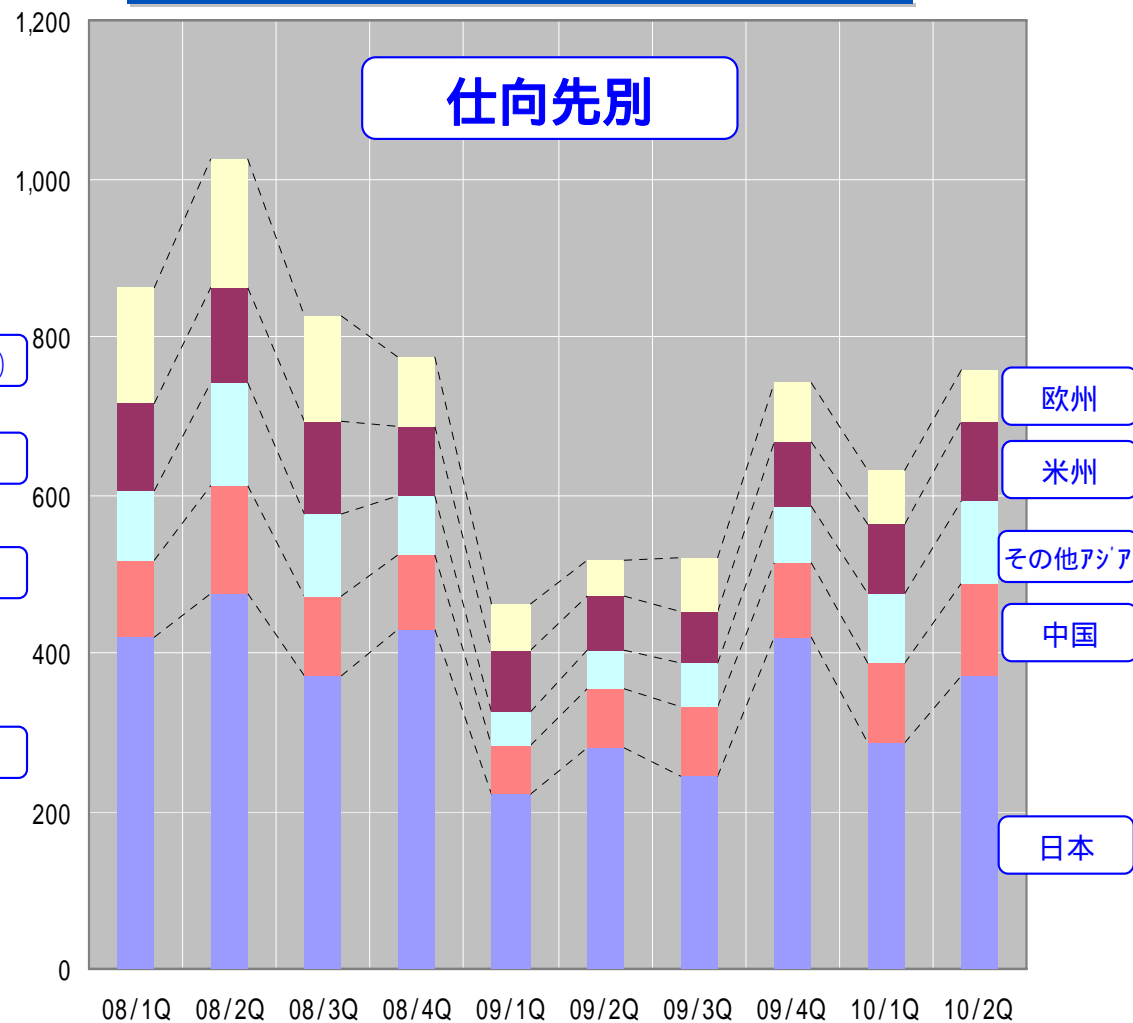
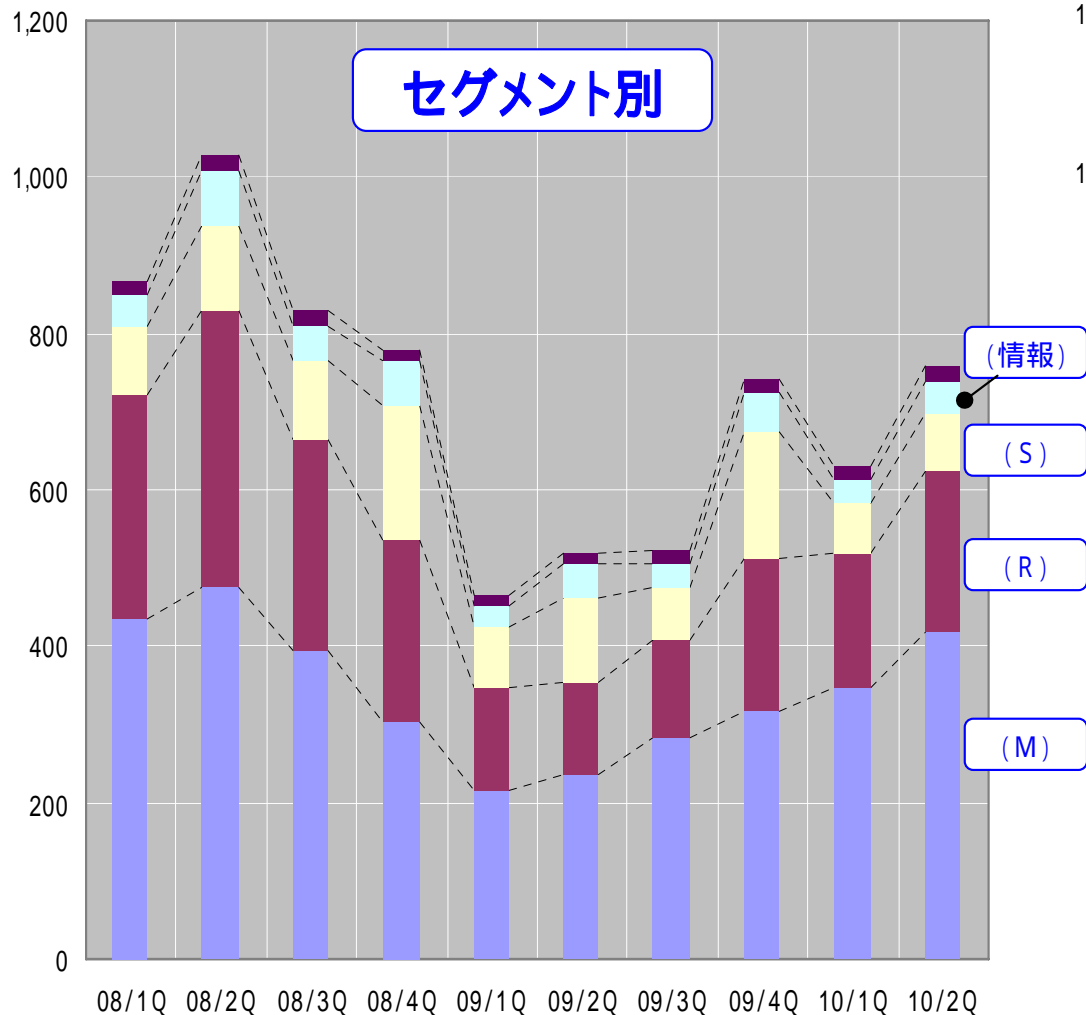
(注)表内「修正予想」は、2010年7月15日時点発表数値

四半期連結売上高推移 (セグメント別・仕向先別)

09/1Qをボトムに順調な回復

中国・アジアが牽引役、日本・米州は順調に回復

(億円)



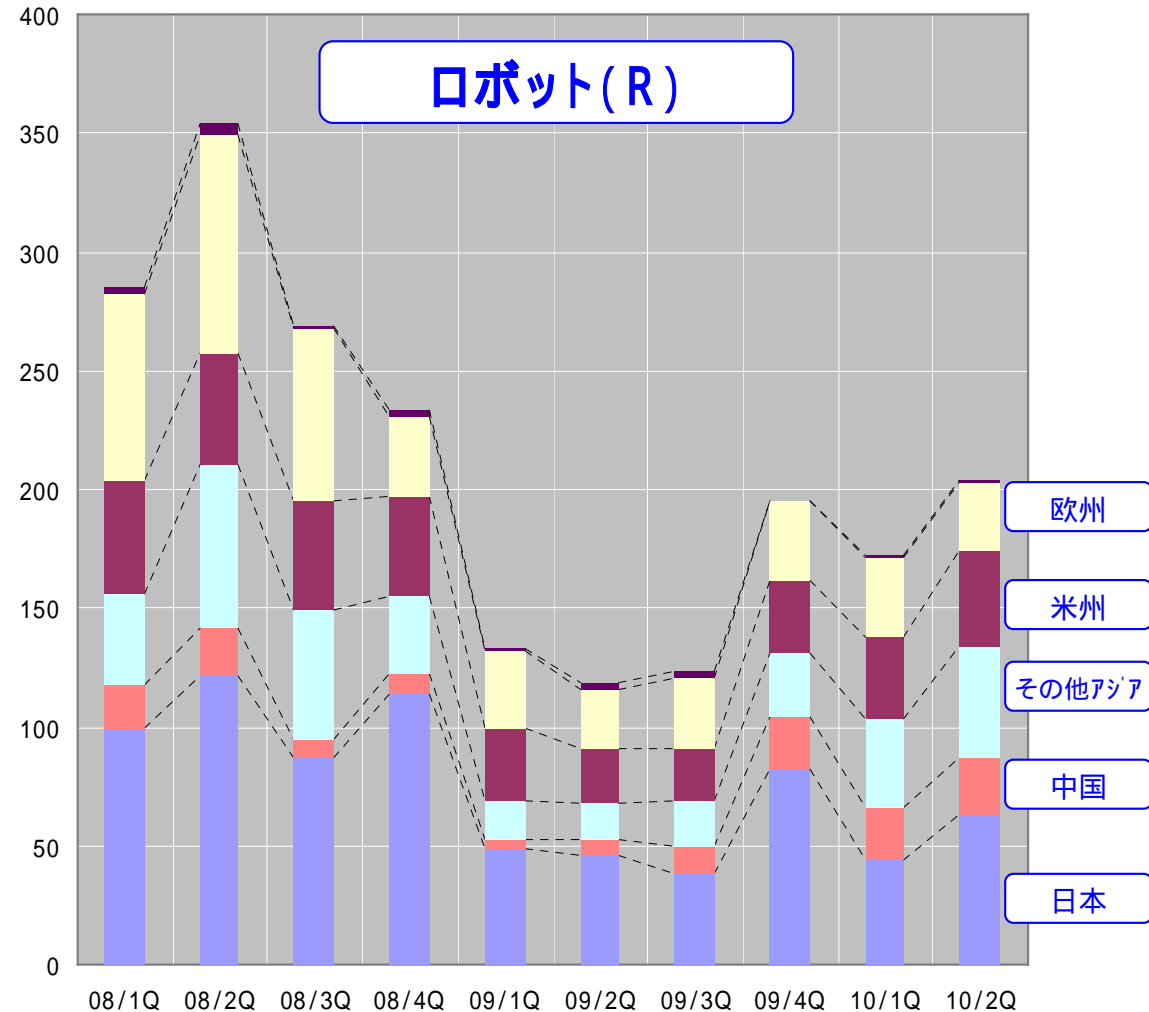
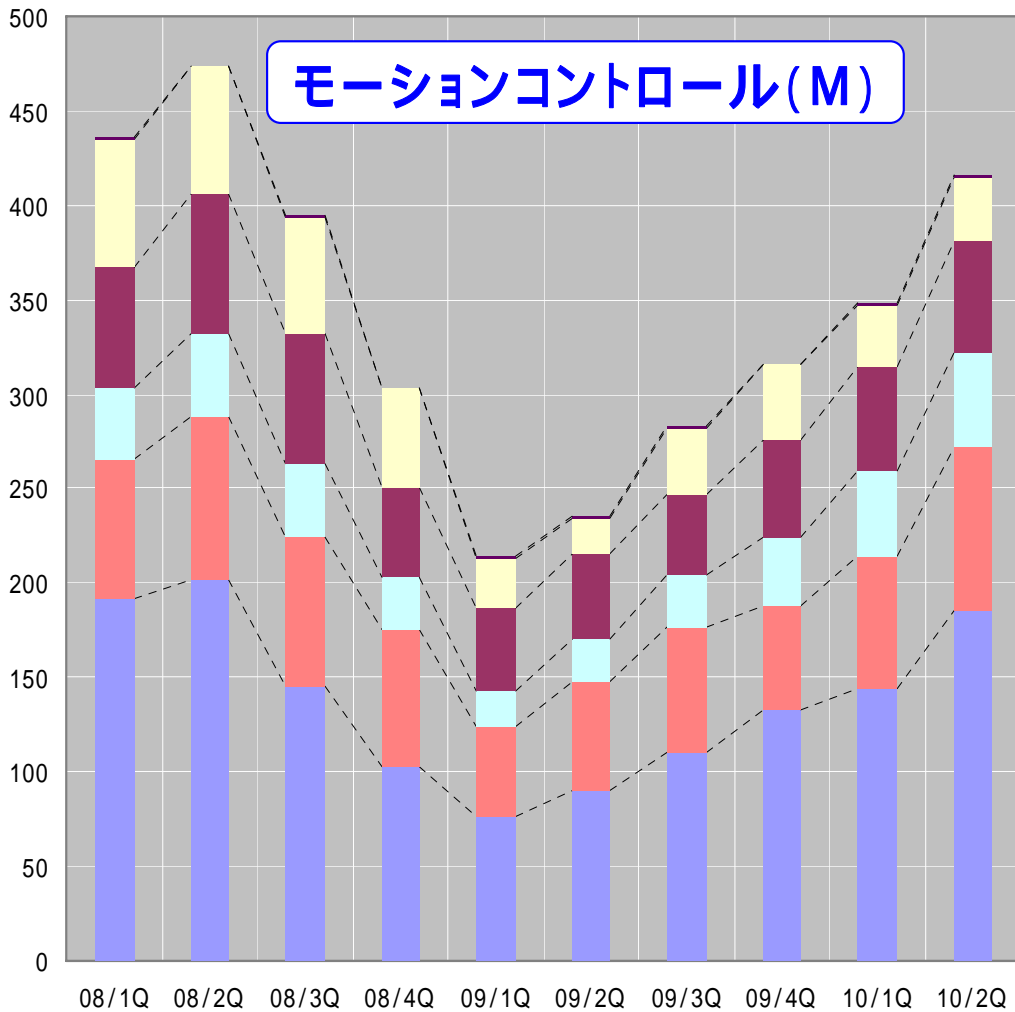
(注)表記: (M) = モーションコントロール (R) = ロボット (S) = システムエンジニアリング

(M)(R) 四半期連結売上高推移 (仕向先別)

中国、アジアが好調に推移、
日本・米州も高水準まで回復

中国・アジア好調、米州は本格
回復、日本・欧州は回復基調

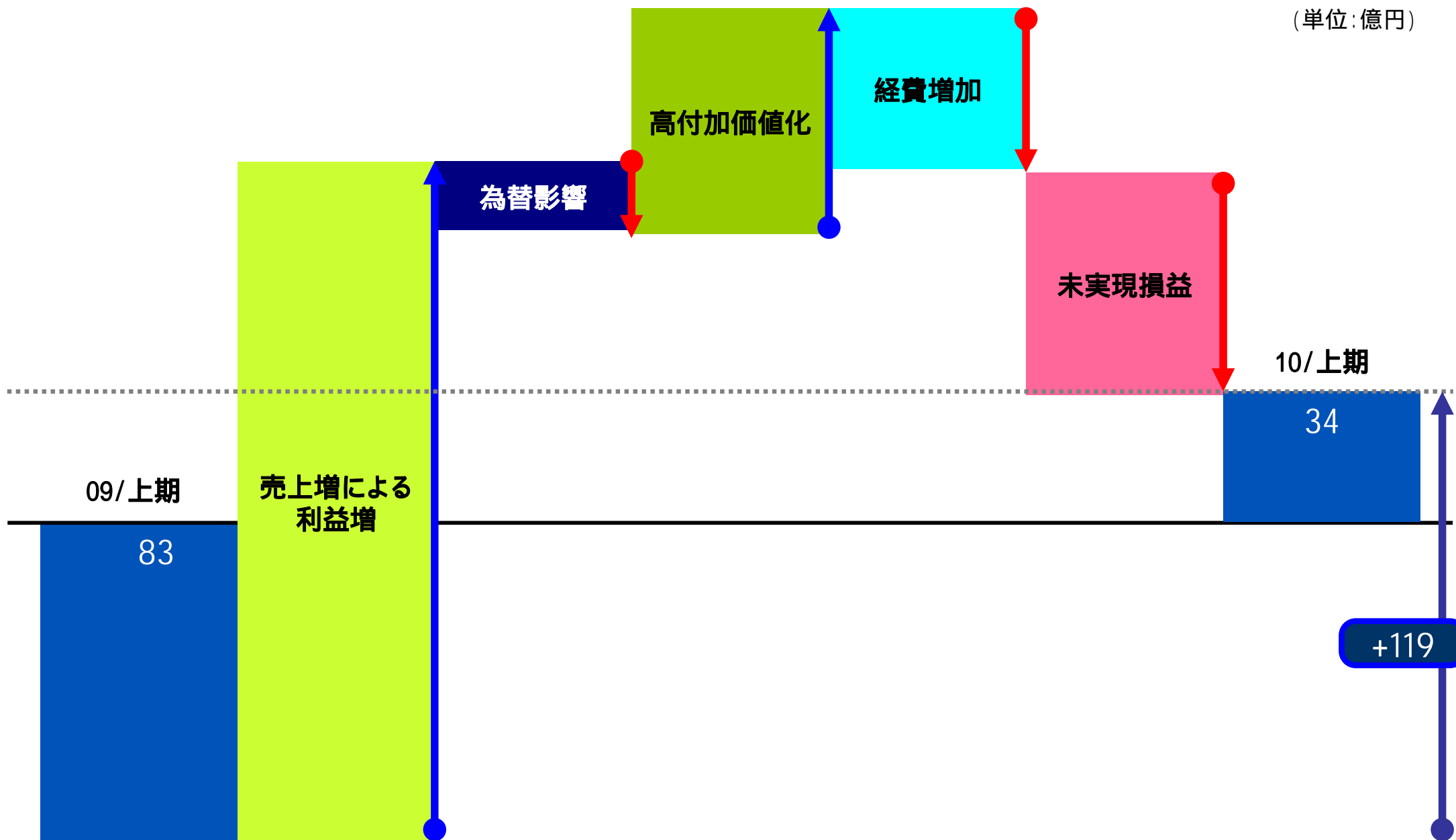
(億円)



(注)表記: (M) = モーショントロール (R) = ロボット

営業利益増減要因分析(2009年度上期 2010年度上期)

(単位:億円)



2010年度下期の事業環境見通し

中国・アジアの高成長、環境・エネルギー関連需要の拡大は継続
自動車は回復傾向だが、半導体・液晶関連は調整期

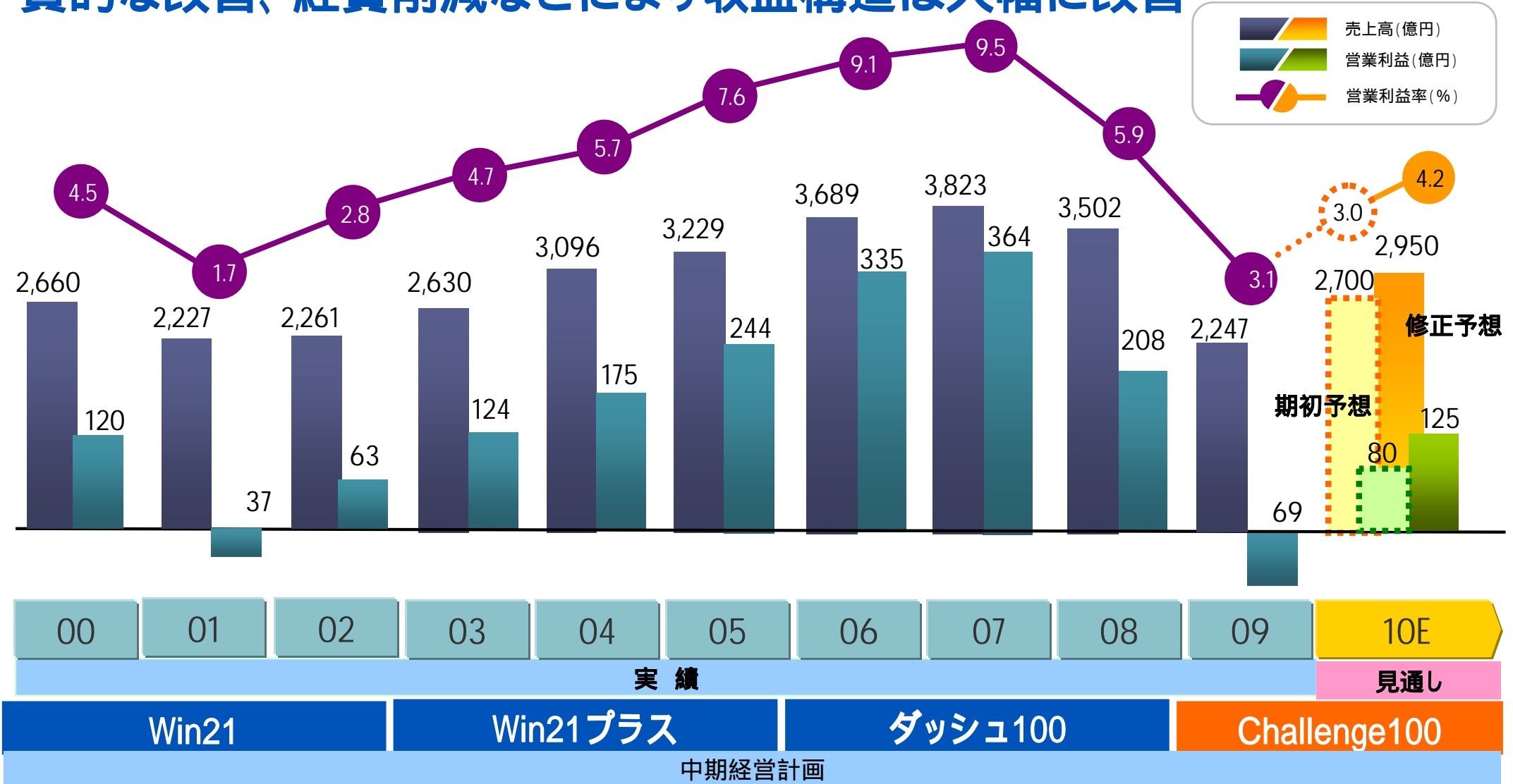
(注) 10年度上期 10年度下期動向

市場環境	半導体	→	設備投資は減速傾向、携帯電話好調
	液晶	→	中国・アジアの設備投資需要は堅調だが、慎重な動きもあり 有機ELの設備投資は拡大
	自動車	↗	中国・韓国は堅調。日米欧は設備投資回復傾向
	鉄鋼	↘	大口投資は一巡、環境関連投資は継続
	環境エネルギー	↗	省エネルギー、新エネルギーに関する需要は安定して拡大

地域動向	米州	→	設備投資の回復基調が続く
	欧州	→	まだら模様ながら、緩やかな回復基調
	中国・アジア	↗	域内需要が強く拡大基調、高水準持続、自動化・ロボット化が追風

00～10年度連結売上高・営業利益推移

2010年度では売上高が急回復(2001年度以降の回復には3年を要した)
質的な改善、経費削減などにより収益構造は大幅に改善



2010年度連結業績見通しのポイント

円高・国内市場など経営環境の厳しさは続くが、中国・アジアへのシフト加速、円滑な生産遂行により、下期・通期を上方修正

	通期見通し	上期実績	下期見通し	(参考) 期初通期予想
売上高	2,950億円	1,394億円	1,555億円	2,700億円
営業利益	125億円	34億円	90億円	80億円
経常利益	125億円	34億円	90億円	80億円
当期純利益	65億円	17億円	48億円	40億円

(M) 堅調な受注、高水準の受注残をもとに売上・利益を拡大

インバータは中国・アジアを中心に海外売上確保

ACサーボは海外需要や受注残の消化により売上・利益拡大

(R) 海外での堅調な自動車、国内受注回復、高水準の液晶・半導体をベースに売上拡大。採算重視の事業運営の徹底

(S) 鉄鋼向けの減収などあるも、想定内の売上・利益を確保

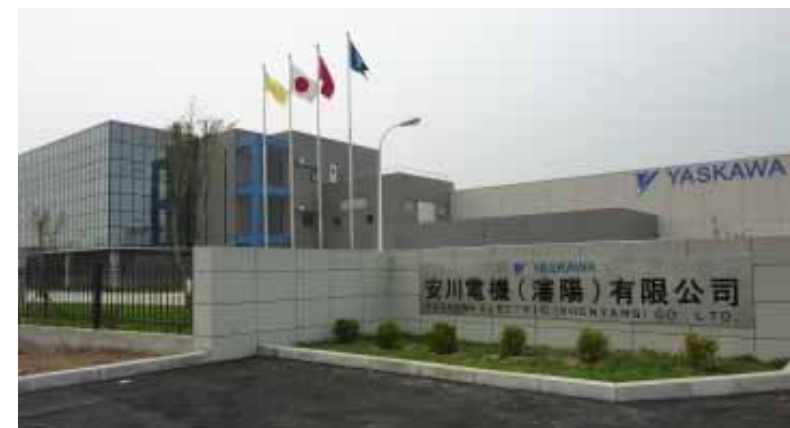
(情報) 下期黒字へ転換するも、上期の赤字を吸収できず

(注)表記: (M) = モーションコントロール (R) = ロボット (S) = システムエンジニアリング

2010年度連結業績見通しのポイント - 1

中国を中心としたアジアシフトの加速

- ・ ACサーボモータの瀋陽工場を稼動(2010年6月)
2011年度本格立上げに向け、工作機等の拡販、
生産拡充を推進中
- ・ 上海インバータ工場の生産能力拡大
生産能力を3倍増(期初計画30万台/年体制から
50万台体制へ拡大)
- ・ 上海にロボット販売・事業推進機能を配置
中国での販売・サービス体制を強化・拡大
- ・ 中国市場拡販のための諸方策の強化
ACサーボモータ 工作機、繊維・紡績、半導体・電子等の市場拡販
インバータ ファン・ポンプ・ブロワ市場、大容量市場への拡販、
ローカルソフト開発の強化
- ・ モーションコントロール製品拡販のための、インド法人設立(2010年8月)
インド工場の立上げとインバータ生産開始(2011年1月)



中国 安川電機(瀋陽)有限公司 外観

2010年度連結業績見通しのポイント - 2

円高対応策の強化

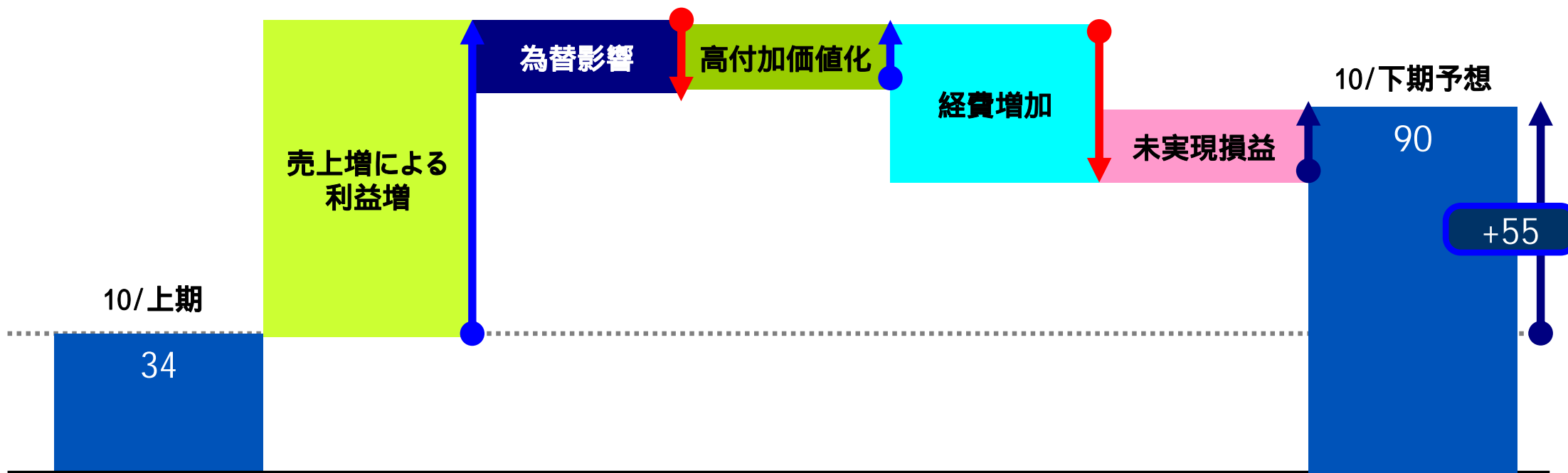
- ・現地生産の更なる拡大
中国を始め需要地生産の拡大、中国・アジアでの新規生産
- ・海外調達品のコストダウン
輸入品の値引き、中国現地調達品の輸入・OUT-OUT化
- ・粗利改善(価格改善)
主力機種への切り替え促進、旧製品の値上げ、価格改善
- ・経費・運営コストのミニマム化
日本国内運営コストのミニマム化、海外事業への資源配分

環境エネルギー分野の事業拡大

- ・大形風力発電用機器の受注拡大
攻略カスタマへの案件捕捉、量産受注の獲得
- ・太陽光パワーコンディショナの拡販強化
代理店販売網の拡充、システムインテグレータの攻略、国内外パネルメーカーへのアプローチ強化
- ・自動車等電気駆動システム事業の立上げ
重点カスタマに対する試作品開発、評価試験の取り組み

営業利益増減要因分析(2010年度上期 2010年度下期予想)

(単位:億円)



(参考) 設備投資、研究開発費、為替状況

設備投資の状況 (連結)

(単位：億円)

	2008年度	2009年度	2010年度計画
設備投資額	86.1	41.2	75.0
減価償却費	80.2	78.4	80.0

研究開発投資の状況 (連結)

(単位：億円)

	2008年度	2009年度	2010年度計画
研究開発投資	97.0	84.9	100.0

為替状況 (単独)

	2008年度		2009年度		2010年度	
	上期	通期	上期	通期	上期	下期 (想定)
対 米ドル	105.6円	101.5円	95.6円	92.4円	89.6円	85.0円
対 ユーロ	163.1円	148.4円	132.1円	130.8円	114.9円	110.0円

(注)期中平均レート